# 平成30年度 授業シラバスの詳細内容

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目名(英) | 日本史 (Japanese History ) | | | 授業コード | K005251 |
| 担当教員名 | 甘利　弘樹 | | | 科目ナンバリングコード | － |
| 配当学年 | 2 | 開講期 | 後期 | | |
| 必修・選択区分 | 教職関係科目(必修)<br>中学校教諭一種免許状(社会) | 単位数 | 2 | | |
| 履修上の注意または履修条件 | 1年次の教職科目全単位や、卒業要件の1年次の取得単位数50単位のうち40単位を取得していることを望みます。遅刻する人、無断欠席する人など、マナーを守れない人は履修しないでください。 | | | | |
| 受講心得 | 授業には必ず出席すること。本授業はあくまでも教職科目です。そのため、教員養成を前提に授業をしますから、時間厳守・連絡徹底など、社会人としてのマナーを求めます。約束事やルールを守れない学生は、評価の対象外とします。 | | | | |
| 教科書 | 本郷和人『日本史のツボ』(文春新書1153、文藝春秋、2018年)。その他に、板書・プリントを用いて授業を進めます。 | | | | |
| 参考文献及び指定図書 | 授業中に指示します。 | | | | |
| 関連科目 | 外国史 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 本授業は、中学校社会科免許取得の必修科目であることから、「中学校学習指導要領」に基づき、かつ社会科(歴史的分野)を教授していくために必要な知識を身に付け、実践してもらいます。そして中学校社会科の範囲における国家・地域や時代を学びながら、特に日本の歴史について理解し、知識を持つことによって、社会科教員としての資質能力を高めることが大きな目的です。 |
| 授業の概要 | 中学校社会科の範囲における日本の歴史について考察します。2017年に告示された最新の「中学校学習指導要領」では、「主体的・対話的で深い学び」が前提とされ、内容・内容の取り扱いに変化が見られるなど、授業方法も従来と異なる多様なものが必要となっています。本授業では、より有効な歴史の授業を行うために、我が国の歴史の動きを、最新の研究成果をもとに整理・分析し、併せて斬新かつ効果的とされる授業方法について考えていきます。 |

| ○授業計画 | |
|---|---|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第 1 週 ： オリエンテーション<br>日本史を学ぶ意義、中学校学習指導要領の内容、授業の進め方など教員になることの職業意識について説明します。 | 第9週～第15週の各発表者は、発表準備のために5時間以上の時間をかける必要があります。 |
| 第 2 週 ： 古代までの日本<br>日本列島において農耕が広まった時期から平安時代末期までの社会の変化について学びます。 | 予習として高等学校日本史B教科書の日本古代史部分、またはそれと同等の書籍を2時間程度かけて読み、理解しておく。 |
| 第 3 週 ： 中世の日本<br>鎌倉時代から戦国時代頃までの社会の変化について学びます。 | 予習として高等学校日本史B教科書の日本中世史部分、またはそれと同等の書籍を2時間程度かけて読み、理解しておく。 |
| 第 4 週 ： 近世の日本<br>ヨーロッパ人が来航した16世紀から江戸幕府が動揺する19世紀前半までの社会の変化について学びます。 | 予習として高等学校日本史B教科書の近世日本史部分、またはそれと同等の書籍を2時間程度かけて読み、理解しておく。 |
| 第 5 週 ： 近代の日本と世界 | |

| | |
|---|---|
| 江戸時代末期から第二次世界大戦終結までにおける日本の「近代化」の動きを、世界の動向とともに学びます。 | 予習として高等学校日本史B教科書の日本近代史部分、またはそれと同等の書籍を2時間程度かけて読み、理解しておく。 |
| **第 6 週 ： 現代の日本と世界**<br>第二次世界大戦後の日本社会の変容を、世界の動向とともに学びます。 | 予習として高等学校日本史B教科書の日本現代史部分、またはそれと同等の書籍を2時間程度かけて読み、理解しておく。 |
| **第 7 週 ： 日本通史の捉え方**<br>第1週から第6週の授業をふまえ、歴史と私たちのつながり、現在と未来の日本や世界のあり方について考察します。 | 予習として左記の考察内容について2時間程度かけ、文章にまとめておく。 |
| **第 8 週 ： 身近な地域から見た日本史　―大分県を事例として―**<br>「身近な地域の歴史」を学ぶ方法を習得するために、大分県の歴史が日本通史とどのようにリンクするかを考察します。 | 予習として受講生各自の出身県の歴史について2時間程度かけ、文章にまとめておく。 |
| **第 9 週： テーマ考える日本史：「天皇」**<br>受講生の発表に基づき、「天皇」をテーマとした日本の歴史について受講生全員・教員で議論し、考察します。 | 予習として教科書pp.11-40を、2時間程度かけて読み、気付いたこと・疑問点を文章にまとめておく。 |
| **第10週： テーマで考える日本史：「宗教」**<br>受講生の発表に基づき、「宗教」をテーマとした日本の歴史について受講生全員・教員で議論し、考察します。 | 予習として教科書pp.41-66を、2時間程度かけて読み、気付いたこと・疑問点を文章にまとめておく。 |
| **第11週： テーマ考える日本史：「土地」**<br>受講生の発表に基づき、「土地」をテーマとした日本の歴史について受講生全員・教員で議論し、考察します。 | 予習として教科書pp.67-92を、2時間程度かけて読み、気付いたこと・疑問点を文章にまとめておく。 |
| **第12週： テーマ考える日本史：「軍事」**<br>受講生の発表に基づき、「軍事」をテーマとした日本の歴史について受講生全員・教員で議論し、考察します。 | 予習として教科書pp.93-116を、2時間程度かけて読み、気付いたこと・疑問点を文章にまとめておく。 |
| **第13週： テーマ考える日本史：「地域」**<br>受講生の発表に基づき、「地域」をテーマとした日本の歴史について受講生全員・教員で議論し、考察します。 | 予習として教科書pp.117-150を、2時間程度かけて読み、気付いたこと・疑問点を文章にまとめておく。 |
| **第14週： テーマ考える日本史：「女性」**<br>受講生の発表に基づき、「女性」をテーマとした日本の歴史について受講生全員・教員で議論し、考察します。 | 予習として教科書pp.151-186を、2時間程度かけて読み、気付いたこと・疑問点を文章にまとめておく。 |
| **第15週： テーマ考える日本史：「経済」** | |

| | |
|---|---|
| 受講生の発表に基づき、「経済」をテーマとした日本の歴史について受講生全員・教員で議論し、考察します。 | 予習として教科書pp.187-217を、2時間程度かけて読み、気付いたこと・疑問点を文章にまとめておく。 |
| **第16週： 期末試験** | |

| | | |
|---|---|---|
| **授業の運営方法** | （1）授業の形式 | 「講義形式」 |
| | （2）複数担当の場合の方式 | |
| | （3）アクティブ・ラーニング | |
| **地域志向科目** | 該当しない | |
| **備考** | | |

| **〇単位を修得するために達成すべき到達目標** | |
|---|---|
| **【関心・意欲・態度】** | 歴史学・歴史教育に対する関心・意欲を高めた上で、教員として使命を持って授業を担当できる態度を形成する。 |
| **【知識・理解】** | 中学校社会科の授業を遂行するために必要な日本の歴史の知識（高等学校日本史程度）を身に付けている。日本の歴史を教授するために必要な授業方法を理解している。 |
| **【技能・表現・コミュニケーション】** | 教材となる様々な資料を適切に収集・分析し、有効な歴史の授業を実施できる。 |
| **【思考・判断・創造】** | 日本の歴史を多面的・多角的視点から教授できるようになるとともに、より効果的な授業を行うための工夫ができる。 |

| **〇成績評価基準（合計100点）** | | | 合計欄 | 100点 |
|---|---|---|---|---|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | **期末試験・中間確認等（テスト）** | **レポート・作品等（提出物）** | **発表・その他（無形成果）** | |
| **【関心・意欲・態度】**<br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | **10点** | **10点** | |
| **【知識・理解】**<br>※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。 | **30点** | **10点** | **5点** | |
| **【技能・表現・コミュニケーション】**<br>※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | **10点** | **10点** | |
| **【思考・判断・創造】**<br>※「考え抜く力」を含む。 | | **10点** | **5点** | |

**（「人間力」について）**

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

| **〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安** | |
|---|---|
| **成績評価方法** | **評価の実施方法と達成水準の目安** |
| **レポート・作品等（提出物）** | 原則として、毎回の授業の冒頭に、予習した内容を小レポートにまとめ、提出してもらいます。また、毎回の授業の最後に、習得した知識・考え方等を小レポートにまとめ、提出してもらいます。本レポートによって出席に代えるとともに、中学校社会科の授業を遂行するために必要な能力・姿勢が形成されたかをみます。なお、学生による発表の際には、事前に教科書を読んだ上で発表を視聴して議論に参加し、各発表とその後の議論による成果をレポートにまとめてもらいます。 |

| | |
|---|---|
| **発表・その他（無形成果）** | 授業中に担当教員から出された質問に対して、必ず回答をしてもらいます。回答の優れた学生には、相応の加点をすることがあります。第9週～第15週の発表は、分担を決めて、個人またはペアで発表してもらいます。発表者は、事前に発表用プリントを作成し、発表日の前週の授業時に提出する必要があります。 |